

1 . The Beginnings of Sesame Street Research

Edward L. Palmer & Shalom M. Fisch

担当：稲垣 忠(関西大学大学院D3)
slt@mba.sphere.ne.jp

【ひとこと概要】セサミストリートの初期の制作状況。とくに番組制作者と研究者とのコラボレーションがどのように生まれ、成功したのか。

CTW(Children's Television Workshop Sesame Workshop(2000~)) : 1968 (Joan Ganz Cooney)

TV Production + Empirical Research, Child Development and Learning

Edward L. Palmer : a founder of CTW and founder of its research function

2年間に800万ドルの補助金 130時間のプログラム

low-income, minority school-readiness skill 3-to-5 year-old children

- ・教育の不十分な子どもたちへの新しいチャンス
- ・大衆向け番組でつくるという勝算&十分な放送前の開発期間(18ヶ月)

1. Backgrounds and History events

- ・ **Civil Rights movement** 教育の重要性 Head Startとの連動 Bloomが5歳までに知的素養の形成
97%の家庭がテレビを所有
1970~「narrow the gaps」第3者機関(ETS)による評価 基本的なリテラシーの向上に有効。
- ・ **Lyndon Great Society**計画による教育に対する支援
- ・ **公共放送の広がり**(フォード財団によるチャンネル~1971)
テレビ保有者の95%が利用できた。 12 million の2/3 8 millionの潜在視聴児童(3-5 year)

2. Background of Children's and Educational Television

Sesame以前の50's-60'sの子ども向け番組 それ以前のメディアの模倣。(Byまくるーはん)

Ex: Story book television:絵本をただ見せるだけ。

proscenium television:カメラの目線=子ども。

The Captain Kangaroo (1955) : いろんな教育的な素材を扱った(セサミはもっとフォーカスしてる,カリキュラムを持っている)

3. The Origins and Scope of Sesame Street Research

80's: 諸外国との子ども向けテレビサービスの比較調査

日・英: 包括的なサービスを提供するための視聴料

そうはならなかった米: 独立して番組供給。CTWもその1つ。その結果, 学校外から, 学童も含めた番組制作に展開。

セサミは当初から評価を意識していた。Cooney, Morrissett, Lesserの中でも, MorrissettとLesserは心理学を専攻。そこでの調査技法が, 教育的な評価だけでなく, こうした新しい試みのリスクを減らし重要さを認識させることをわかっていた。 in-house research/ in-house educator: リサーチャーと番組制作の連携の結果, 40のスキットを1時間の番組にx130時間分, 2400のプログラムができた。

Scrivenによるformative evaluationとsummative evaluationのバランス。CTWはformativeを重視することで, in-house research.

researchの3つの役割

- ・カリキュラムと番組をより効果的に結びつける
- ・形成的評価を実施する
- ・総合的評価をする外部組織と連携する

4. Integrating Curriculum into television production

これまでにない系統だった定量可能な評価基準をともなったカリキュラムの開発 こんなことしたら、 dullな番組になっちゃうんじゃないか？という懸念 カリキュラムはentertainment性を規定しないし、ゴールを決めたって表現方法はいくらでもある。

- **Establishing Priorities among Goals:**ゴールの中で重視するものを決める。テレビでの表現に合うものを。そうでないものや親がしそうなことはそちらで。100をねらって25を達成するより、10にフォーカスして25の成功を導け
- **The Writer's NoteBook :**制作の過程で明らかになった知見をノートに貯める。ナレッジを共有せよ。
- **Merging Education and Entertainment:**怖がらせるシーンと安心させるシーンでは怖いシーンが印象に残るだけで番組の意図が伝わらないという調査結果 attraction と comprehensionの間のinteraction
- **Emphasis, Repetition, and Sequencing:**シリーズとしての連続性。たとえばアルファベットの発音は子音(21音)1回ずつ+5つの母音を3回の計36セット。簡単なものから複雑なものへという単純なシーケンスは放送には似合わない。さまざまなbackground, 年齢, 不規則な視聴形態を前提にしたうえで, こうした繰り返し, バリエーションをいれている。
- **Studio Production:**制作過程に研究者がどう関わるか。セサミでは制作過程に研究者が注意深く入り, 適切な助言を与えてきた。

5. Informing Production Through Formative Research

researcherによる形成的評価をどう活かすか？

- **Establishing the Use and Methods of Research :**formative researchは前例のない, 理解されていない状況だった。プロデューサーの意思決定を奪わない, リサーチャーはさまざまな情報を与えるが最終決定はプロデューサーという理解。テレビの何が子どもを惹きつけるのか？という実験(distractor technique) キャラクターが問いかけたり, 同じ映像を音なしで繰り返すといった技法の開発へ。
- **Impact of the Research on Production :**production decisionに役に立つformative research。たとえば, 「J」についての番組で, キャラクターが踊っているのに文字が固定だと, 子どもが文字に注意を惹かれないという結果 Jにアニメーションを加えるようになった。Wを分解して動かす手法とか, 音楽をどう効果的に使うかなど。creative cooperation between producers and researchers

6. Measuring Impact : Summative Research

educational impactをちゃんと測り, 助成に対するアカウンタビリティと, 自身らのin-house production and researchの妥当性を確かめるために, 当初からsummative evaluationの必要性は示されてきた。

7. Communication Outside CTW

- **Relations with the Academic Community:**方法論の共有, 成果の公表のため, そして研究者と協力し, この分野の確かな理論化を進めるため。
- **Public Relations.:**公共放送の整備しきれないターゲットにまで届くように。また, カリキュラムと形成的な評価を取り入れた最初の教育番組だったことから, 教材としての社会的な認知を獲得。
- **Funding for Sesame Street.:** 助成を得るためには, ETSの調査報告が役立った。それに加えて当初, progress testを実施した。

8. Conclusion

「(研究者と番組制作者のコラボレーションは) 続ける価値のある結婚だ。子どもたちのために。」

by John G. Cooney

【感想・コメント】

- 番組制作のプロセスに対して研究者が何をできるのか, を考えていった結果としてのFormative Evaluation。学校教育ではこれにプラス教師が加わった時に何をすべきか。どう評価できるのか。
- ゴールを定量的に測りにくいテーマ, 学習に対するFormative Evaluationに説得力を持たせるには？